

## 平成26年度第1回山形人材育成委員会総会 議事録

日 時 平成26年5月19日(月) 15:00~16:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者	委員長	安田 弘法	(山形大学)
	副委員長	大川 健嗣	(東北文教大学・東北文教大学短期大学部)
		大沼 勇	(山形県)
	委員	伊橋 光二	(山形県立保健医療大学)
		花岡 孝	(東北芸術工科大学)
		小嶋 隆一	(山形県立米沢女子短期大学)
		長谷川 守男	(代理)(羽陽学園短期大学)
		佐藤 尚	(代理)(山形県立産業技術短期大学校)
		勝見 英一朗	(山形工科短期大学校)
		金内 良一	(山形県市長会)
		仁科 義英	(山形県町村会)
		松田 一彦	(山形県商工会連合会)
		齋藤 豊	(山形県中小企業団体中央会)
	陪席者	池田 知之	(東北芸術工科大学)
		田原 舞	(東北芸術工科大学)
		小笠原 広美	(東北文教大学・東北文教大学短期大学部)
		横井 博	(山形大学)
柴田 孝		(山形大学)	
滝澤 匡		(山形大学)	
矢口 清		(山形大学)	
棚井 信良		(山形大学)	
尾形 睦		(山形大学)	
庄司 有里		(山形大学)	
事務局	鈴木 啓伸	(大学コンソーシアムやまがた)	
	西田 靖子	(大学コンソーシアムやまがた)	
欠席者	委員	玉本 英夫	(東北公益文科大学)
		田中 ふみ子	(羽陽学園短期大学)
		神田 和也	(鶴岡工業高等専門学校)
		藤原 茂樹	(山形県立産業技術短期大学校)
		富田 博	(山形県商工会議所連合会)
		長岡 喬	(一般社団法人 山形県経営者協会)

議事に先立ち、本総会の議事録署名人を小嶋委員と齋藤委員に依頼したい旨提案があり、了承された。

## 【報告事項】

### 1 平成25年度事業報告及び収支決算について

事務局から資料1及び資料2に基づき説明があり、了承された。

(主な意見交換)

・平成26年度より共同教育評価をIRシステムで本格稼働させるための準備を行ったとあるが、どのようなことを行ったのか。

→IRシステムでは、山形講座での教育評価や他の教育データ、入試や就職データ等といったデータを関連付けてどのように山形講座の教育評価を評価できるのかを分析しようとしている。まず、山形講座の教育評価データがないとIRシステムとしては始まらないので、平成25年度は一部の授業の教育評価のデータを試行的にIRシステム上で分析等を行い、結果がどうであるかの調整を行った。平成26年度は、本格的に教育評価部分のデータをシステムへ反映させ稼働させる予定となっている。学生や入試、就職データとどう今後関連付けていくのか、試行的にはあるが今後検討し稼働させる予定でいる。

・IRシステム上でサンプルとなる学生の対象となる学部・学科等が決まっているのか、それとも汎用的なシステムなのか。

→平成25年度は山形講座としては初年度であるためサンプル数が少なく、また試行的にどのようなデータを抽出できるかを見定めた。本事業でのIRシステムは各大学でも利用できる汎用的なものとしている。

・返還額が昨年同様多額だが、適正な価格で予算編成を行ったのか、経費削減を図ったからなのか。もしくは、実行できなかった事業があるのか。

→予定していた事業はすべて行っている。予算編成時の積算が甘かったのかもしれないが、平成26年度は平成25年度の実支出額を基に編成を行ったので、26年度は適正に執行を行うことができる予定でいる。

### 2 「大学間連携共同教育推進事業」中間評価実施時期の変更について

事務局から資料3に基づき説明があり、了承された。

(主な意見交換)

・連携校・連携機関に協力をよろしくとのことだが、連携機関においては特に作成しなければいけないものはないと考えているがどうなのか。

→ステークホルダーとの共同状況について、ご協力をお願いしたいと考えている。

### 3 平成26年度「社会人力育成山形講座」の開講状況について

大川共同教育部会長から資料4に基づき報告があり、平成26年度山形講座遠隔地受講者交通費負担軽減措置に係る山形大学奨学寄附金制度の活用については、山形大学横井博教授より説明があった後、了承された。

## 【協議事項】

### 1 平成26年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

事務局から資料5及び資料6に基づき説明があり、意見交換の後に了承された。

(主な意見交換)

- ・IRシステムの導入は、本事業の一つの目的であると考えていいのか、または共同教育評価の一つの方法としての位置づけであるのか。  
→IRシステムを導入すること自体が一つの目的であり、システムを稼働させることにより共同教育評価へ反映させることは一つの方法と言えると考えている。教育の分析データだけではなく、入試や就職のデータを関連付けた際、どういった結果がみえてくるのかを本事業終了までに行うことができないかと考えている。
- ・各大学の規模が異なるので、汎用的なシステムの導入となっているのか。  
→山形講座用のシステムとなっているが、個別に大学に合わせたシステムとはしていない。
- ・IRシステムに入試や就職データを関連付ける際の学生の了解はとれているのか。  
→大勢のサンプルで分析を行うのは難しいと考えている。今回、試行的に10～20人程度のターゲットを作り教育データ以外と関連付けたいと考えている。その際、学生から同意を得る難しさや関連付けるデータの入力といった個人情報の取り扱いの難しさを課題として掲げながら、準備段階として試行的に行う予定でいる。
- ・その他関連事業の予算額が平成25年度の決算額を下回っているが、平成26年度は中間評価への対応等がその他関連事業に含まれているが、平成25年度の決算額より下回っているこの予算額で適正に運営を行うことができるのか。  
→今の予算編成段階では、委員会・部会等の開催関連事業の一部が含まれており、適切に運営を行える見込みである。また平成25年度の決算額には、山形講座の連絡用掲示ポスター制作費が含まれており、その分19万円ほどは今年度は支出を予定していないため、本予算額での提示になった。
- ・山形講座を履修した学生の就職先など、どの程度山形県内で活躍しているのか、山形講座を履修しての効果を明示してほしい。

## 【その他】

- ・山形県立栄養大学について、本事業への参加はどのように取り扱われることになっているのか。  
→山形県立栄養大学と協議を行い、大学コンソーシアムやまがたへは本年度より加盟をしていただくことになった。本事業においては、文部科学省と連携校の追加にあたり事前に協議を行っており、連携校に新たに加わるには山形講座の授業を開講するなど具体的な追加の意義、目的及び効果の回答を求められ、連携校へ名を連ねるだけでは承認は難しいとのことで今年度は見送る形になっている。

以上

## 【配 付 資 料】

資料 NO なし 山形人材育成委員会名簿

資料 NO なし 平成 25 年度第 2 回山形人材育成委員会総会議事録

資料 1 平成 25 年度 山形人材育成委員会事業報告書

別紙 1 美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開 平成 25 年度報告書

資料 2 平成 25 年度山形人材育成委員会収支決算書

資料 3 「大学間連携共同教育推進事業」平成 24 年度採択取組の中間評価実施時期の変更について

資料 4 平成 26 年度「社会人力育成山形講座」の開講状況報告

資料 5 平成 26 年度山形人材育成委員会事業計画書（案）

別紙 1 平成 26 年度大学間共同教育推進事業の事業計画

別紙 2 平成 26 年度「社会人力育成山形講座」開講科目一覧

資料 6 平成 26 年度山形人材育成委員会収支予算書（案）


別紙 1 委託事業申込書

参考資料 1 平成 26 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書


参考資料 2 平成 26 年度「大学間連携共同教育推進事業」の交付内定について

議事録署名人

山形大学理事・副学長

安田弘法 

山形県立米沢女子短期大学教授

小嶋隆一 

山形県中小企業団体中央会副会長

齋藤豊 